

# 「学校教育に関するアンケート」のまとめ

令和6年3月 塚田小学校

## (1) 実施項目と結果 (回答率 85.2%)

		A	B	C	D	E	%	
		A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない D そう思わない E わからない					85.2%	
		回答率：85.2%						
		A	B	C	D	E		
1	学校は、学校教育目標「自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成」をめざして教育活動を行っている	R5年度 30.8	R5年度 61.0	R5年度 2.0	R5年度 0.5	R5年度 5.7		
		R4年度 20.3	R4年度 62.2	R4年度 3.8	R4年度 0.9	R4年度 12.8		
2	学校は、学校だより・学年だより・Webサイト・メール配信等で、保護者や地域の方に対して情報提供を適切に行っている	R5年度 55.4	R5年度 40.8	R5年度 2.0	R5年度 0.3	R5年度 1.6		
		R4年度 42.3	R4年度 53.1	R4年度 2.3	R4年度 1.0	R4年度 1.3		
3	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる	R5年度 19.6	R5年度 52.1	R5年度 6.1	R5年度 1.7	R5年度 20.4		
		R4年度 15.3	R4年度 56.1	R4年度 6.4	R4年度 1.8	R4年度 20.4		
4	学校は、スクールカウンセラーに相談したい時どうすればよいかをわかりやすく説明するなど、お子さんや保護者にとって悩みや困ったことを相談しやすい環境づくりに努めている	R5年度 35.2	R5年度 50.2	R5年度 5.6	R5年度 1.7	R5年度 7.3		
		R4年度 24.6	R4年度 53.6	R4年度 7.3	R4年度 3.3	R4年度 11.2		
5	学校は、分かりやすく工夫して授業を展開している	R5年度 32.4	R5年度 50.5	R5年度 4.3	R5年度 1.3	R5年度 11.6		
		R4年度 27.2	R4年度 55.0	R4年度 5.9	R4年度 1.3	R4年度 10.7		
6	学校は、ICT機器（コンピュータ・タブレット端末・デジタルテレビ等）を学習に適切に活用している	R5年度 34.5	R5年度 47.6	R5年度 5.2	R5年度 3.0	R5年度 9.8		
		R4年度 25.5	R4年度 50.6	R4年度 10.7	R4年度 3.1	R4年度 10.1		
7	学校は、お子さんの体力向上に対する指導を適切に行っている	R5年度 30.4	R5年度 55.4	R5年度 5.6	R5年度 2.0	R5年度 6.6		
		R4年度 18.4	R4年度 54.6	R4年度 12.8	R4年度 2.8	R4年度 11.5		
8	学校は、授業参観・懇談会・教育相談等、保護者と学校が話し合う機会を適切に設けている	R5年度 46.4	R5年度 49.8	R5年度 2.0	R5年度 0.4	R5年度 1.4		
		R4年度 30.9	R4年度 58.5	R4年度 6.0	R4年度 1.7	R4年度 2.9		
9	学校は、PTAや地域との連携を図っている	R5年度 33.2	R5年度 56.4	R5年度 1.6	R5年度 0.7	R5年度 8.2		
		R4年度 27.7	R4年度 54.6	R4年度 3.6	R4年度 0.6	R4年度 13.5		
10	学校は、教室環境・廊下・掲示等、お子さんの学びの場としての環境づくりに努めている。	R5年度 40.4	R5年度 49.7	R5年度 2.1	R5年度 0.3	R5年度 7.5		
		R4年度 30.1	R4年度 53.1	R4年度 5.0	R4年度 1.8	R4年度 10.1		
11	学校は、お子さんの健康と安全に対する指導を適切に行っている	R5年度 36.3	R5年度 55.0	R5年度 2.3	R5年度 1.0	R5年度 5.3		
		R4年度 30.2	R4年度 56.9	R4年度 4.3	R4年度 1.7	R4年度 6.9		
12	学校は、食育を通してお子さんのよりよい生活習慣作りに努めている	R5年度 43.2	R5年度 48.9	R5年度 2.2	R5年度 0.7	R5年度 5.1		
		R4年度 46.0	R4年度 44.1	R4年度 4.5	R4年度 1.4	R4年度 4.0		
13	学校は、感染症対策や病気・怪我等の保護者への連絡を適切に行っている	R5年度 45.4	R5年度 47.1	R5年度 4.4	R5年度 0.9	R5年度 2.2		
		R4年度 37.8	R4年度 50.5	R4年度 6.4	R4年度 1.8	R4年度 3.6		
14	お子さんは、学校を楽しみにし元気に登校している	R5年度 51.1	R5年度 39.9	R5年度 5.6	R5年度 2.5	R5年度 0.9		
		R4年度 49.4	R4年度 37.9	R4年度 6.9	R4年度 4.2	R4年度 1.7		
15	お子さんは、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度が育っている	R5年度 37.2	R5年度 58.3	R5年度 2.5	R5年度 0.3	R5年度 1.8		
		R4年度 37.6	R4年度 55.4	R4年度 3.7	R4年度 1.1	R4年度 2.2		
16	お子さんは、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身についている	R5年度 39.9	R5年度 43.8	R5年度 12.1	R5年度 4.0	R5年度 0.0		
		R4年度 37.9	R4年度 42.7	R4年度 13.0	R4年度 5.6	R4年度 0.8		
17	お子さんは、家庭学習に取り組んでいる	R5年度 30.7	R5年度 44.2	R5年度 18.9	R5年度 5.9	R5年度 0.4		
		R4年度 30.1	R4年度 45.4	R4年度 15.6	R4年度 8.4	R4年度 0.5		
18	お子さんは、「テレビ視聴やゲームをする時間」「携帯電話やインターネットの使い方」等について、家庭でのルールを守っている	R5年度 21.2	R5年度 47.1	R5年度 22.2	R5年度 8.5	R5年度 1.0		
		R4年度 22.6	R4年度 43.0	R4年度 23.0	R4年度 11.0	R4年度 0.5		
19	保護者の皆様は、学校からの文書やメールなどをよく読んでいます ※今年度からの設問です	R5年度 31.9	R5年度 58.4	R5年度 7.9	R5年度 1.3	R5年度 0.5		
		R4年度 /	R4年度 /	R4年度 /	R4年度 /	R4年度 /		
20	お子さんは、「英語科の授業」に意欲的に参加している。	R5年度 28.1	R5年度 45.4	R5年度 12.0	R5年度 1.8	R5年度 12.7		
		R4年度 34.6	R4年度 43.6	R4年度 6.6	R4年度 1.6	R4年度 13.6		
21	地域・保護者等における子供の見守り活動が充実している	R5年度 31.3	R5年度 57.1	R5年度 4.8	R5年度 0.7	R5年度 6.1		
		R4年度 22.4	R4年度 59.1	R4年度 7.7	R4年度 2.9	R4年度 7.9		

## (2) 考察

### ○「2 保護者・地域の方への情報提供」について

学校からの文書のデジタル化を図ってほしいとのご意見をいただきました。各家庭の事情やお知らせの内容により、全てをペーパーレスにすることは難しいと思いますが、できるものからデジタル化を図ります。月当初のお便り（学校だよりや給食献立表など）につきましては、学校ホームページに毎月掲載していますので、来年度以降も継続します。文書のメール配信につきましては、3月から新メールシステムになりましたので、できるものから実施します。学校ホームページ「新着情報」の更新に関しましてはご好評をいただきましたので、来年度も継続していきます。

### ○「3 いじめ防止への取り組み」について

いじめ防止への取り組みについて、引き続き学校全体で真摯に取り組んでほしいとのご意見をいただきました。いじめについては、早期発見と未然防止がとても重要であると考えております。今後も今年度と同様に、市のアンケート（年3回）・県のアンケート（年1回）の他、学校独自で月に1回のアンケートを実施するとともに、児童と担任との面談を継続的に実施することで、より一層児童の思いや困り感に寄り添っていきます。また、困ったときには担任または相談しやすい教職員（スクールカウンセラー・養護教諭・主幹教諭・教頭など）に相談したり、校長室前の相談BOXを活用したりするよう児童に繰り返し伝えるとともに、いじめに関する学校体制と対応を教職員全体で確認し、「塚田小いじめ防止基本方針」をホームページを通して保護者の皆様に周知していきます。昨今、SNSの普及やスマートフォンの所持率が上がったことで、いじめの発見がしづらくなっています。気になる様子がありましたらご相談ください。

### ○「4 スクールカウンセラー（以下SCと表記）との相談体制」について

SCとの相談体制について、保護者と児童にさらに周知を図ってほしいとのご意見をいただきました。本校では、市と県から派遣された2名のSCが勤務しております（市SCは基本的に週に1回、県SCは基本的に月に2回）。今年度に引き続き、学校だよりによりSCの勤務日と相談申込の仕方を毎月明記するとともに、児童にもSCへの相談の仕方を繰り返し説明し、SCと相談しやすい体制をより一層整えていきます。

### ○「5 分かりやすく工夫した授業の展開」について

分かりやすく工夫した授業の展開、ひいては児童の学習内容の理解について、基礎・基本となる知識・技能のより一層の習熟を望むご意見をいただきました。来年度も、校内の学習指導部を中心に、まずは教職員で学習規律・学習環境の共通理解を図り、児童に共通指導を行います。さらに、学校全体で授業研究に継続的に取り組み、教職員の授業力向上に努め、個々の児童の実態に応じた指導の充実を図っていきます。また、教職員の経験等の差による指導の差異を減らすために、学年主任を中心に学年内で授業の進度・内容等を確認していきます。

### ○「8 保護者と学校の関わり」について

保護者と学校の関わりについて、担任・学校と関わることのできる機会の増加を求めるとご意見をいただきました。来年度もインフルエンザやコロナウイルス等の感染状況に応じた対応が必要になりますが、学校行事や出前授業の際には、可能な限り保護者の皆様に参観していただきたいと考えています。また、授業参観や学級懇談会、個人面談等も適宜設定し、家庭と学校が関わることのできる機会を数多く確保していきます。保護者の皆様が参観できる行事につきましては、できる限り早めにお伝えするよう努めていきます。

### ○「20 英語科の授業」について

英語科の授業の一層の充実を望むご意見をいただきました。船橋市は平成21年度より文部科学省の「教育課程特例」の指定を受け、本校でも全学年でALT（ネイティブの派遣教員）と担任による授業を行っています。「英語学習への興味・関心を持つ」とすることが市としての目標ですので、この目標に向かい、指導法研究やALTとのミーティングなどを続け、児童の英語への興味・関心がより一層高まるように改善を図っていきます。

### ○「その他様々のご意見」について

- ・マスクの着用を含む感染症対策、マラソン納会の実施方法、タブレットの取り扱い、宿題の内容・量等に対する保護者の皆様のご意見は賛否様々です。それぞれのご意見を参考にしながら、今後も学校としてより良い選択ができるよう考えていきます。
- ・「教職員の人数を増やしてほしい」とのご意見をいただきました。教職員の人材配置につきましては、全て県または市からの配置となり、学校独自で職員を配置することはできません。県と市にはその都度要望をしておりますが、教職員の人材確保が大変難しい状況です。来年度も県と市に人材配置について粘り強く要望を続けていきます。
- ・「給食の量とメニューを増やしてほしい」とのご意見をいただきました。給食の分量は、国の基準と児童の体位に則って決定をしています。栄養教諭と給食調理員を中心に、栄養バランスはもちろんのこと、児童の食の体験を増やすことも大切に考えて献立を立てております。
- ・「トイレの数を増やしてほしい」「汚れが目立つ場所をきれいにしてほしい」等のご意見をいただきました。トイレや水回り等施設・設備の修繕については、学校から市に要望を出し、市が市内の学校全体を考慮し、優先順位をつけての実施となります。今後も状況に応じて要望を出し、修繕を続けていきます。
- ・「特別支援学級を設置してほしい」とのご意見をいただきました。特別支援学級につきましては、市の計画に基づき、設置されます。学校独自で特別支援学級を開設することはできません。市内に少しずつ特別支援学級も増えておりますが、来年度に関しましては、本校に設置の予定はありません。
- ・登下校等、安全面に関するご意見をいただきました。スクールガードの皆様は、ボランティアで児童の登下校の見守りを行ってくださっています。「おはようございます」「ありがとうございます」と、挨拶でお礼の気持ちを伝えることのできる児童を育てたいと考えております。ご家庭でもお子さんにお伝えください。
- ・PTA活動についてのご意見は、PTA本部の皆様にお伝えしました。PTAそしておやじの会の皆様には、今年度も本校の教育活動にご協力いただき、感謝申し上げます。

## (3) 学校運営協議会の皆様からのご意見

- ・9割の保護者が「我が子が学校を楽しみにし、元気に登校している」と感じている。我が子の様子を見てそのように判断しており、この数値が高いのは素晴らしい。学校の教育環境作りの成果である。
- ・いじめについては、アンケートや面談等をこまめに行い、教職員がアンテナを高くして対応しているところが評価できる。来年度も引き続き児童の様子をきめ細やかに見取り、未然防止と早期発見に努めることをお願いしたい。
- ・教職員の人材配置については、児童にとってよりよい教育環境の実現と、教職員の負担軽減と働き方改革推進を図るため、学校運営協議会として積極的に市に要望していく。
- ・特別支援学級解説についても、それぞれの児童に応じたきめ細やかな教育の実現のため、学校運営協議会として積極的に市に要望していく。
- ・タブレット等ICT機器を活用した個別最適な学習やデジタル化の推進は、便利で効率化が図れるので効果的だが、これまで培ってきた教育（一斉学習、体験活動等）にもよさがある。それぞれのよさがあるので、児童の実態に合わせてハイブリッドで生かしていただいたい。
- ・一つ一つの案件に対して、それは「学校が対応すること」なのか、それとも「家庭で対応すること」なのかを正しく判断することが重要である。「全て学校に連絡をし、対応を求める」という風潮があるが、学校管理下外（下校後や土日等）に起きた案件は、基本的に家庭が対応するものである。これからの時代は、「共に取り組もう」という家庭と学校の協働意識がより求められる。